単元学習の中での「討議・話し合い」

——単元「戦後五十年を迎えて」を通して——

大里康暁

一　はじめに

本単元は一九九五年七月から十二月にかけて、全二十数時間をかけて実施したものである。あとの「単元設定の理由」にあるようなねらいで実施したものであり、「討論」は特に意識せずに行っている。

この単元は、【①自分の戦争観の見直し　②他国との関係理解　③他の国の人との対話(現在とのつながり)　④戦争観の再構築】という流れで行われた。このなかでは個人で作業し、考えていく場面と同時に、「③対話」の準備・まとめに際してクラス・班で意見をまとめていく場面もあった。意見をまとめていく場面では、指導者の意識は「討議」ではなく、「話し合う」「交わし合う」ことに向いている。これは、考え・思いを「交わし合う」という場面が作りたいのに作れていないという普段の授業への授業者の反省に由来している。

以下は、本単元のうち特に話し合いを必要とした場面の「授業過程」「ねらい」「生徒の様子」の報告である。

二　単元「戦後五十年を迎えて」の報告

単元名　国語科単元学習「戦後五十年を迎えて」

対　象　広島大学附属中学校　二年生

単元設定の理由

昨年（一九九五年）が終戦後五十年目であったことを契機に、もう一度「戦争・平和」について見つめなおす機会を作りたいと思い、単元『戦後五十年を迎えて』を実施した。

戦後五十年を迎えて、各地で記念行事が行われ、新聞やテレビでも連日のように特集が組まれた。それらを見ていると、日本の「加害」という側面が大変クローズアップされていることに気づく。初めて知る戦争の一側面に情けなさ、腹立たしさがこみ上げてくる。と同時に、原爆・沖縄などに触れるとき、どうしようもなく心が痛む。五十年前

の戦争がどんなものだったのか、一言のもとに判断するのは難しい。しかし、スミソニアンでの原爆展の中止、止むことのない核実験、中近東での紛争、繰り返される日本官僚の「妄言」と謝罪など、現在の不安定な状況から脱却していくためには、先の戦争をよく見つめ、多くのことを感じとることは不可欠である。

しかし、現在の中学生を見てみると、物質的に恵まれた生活の中で、「戦争」は過去のものでしかない。多種多様の情報がとりまく中で、「戦争」もそのうちの一つの位置を占めるのみである。広島県では、小学校の時から毎年「平和学習」が行われる。その成果として、特に原爆についてはよく知っており、戦争に対し具体的に思いをめぐらせることができる。しかし、なかなか「現在」とつなげることは難しい。この点の克服のためには、「戦争」を生きた一人ひとりを見つめさせること、「現在」を見る目を養うことが必要であると考える。

国語科の教科書に採択されている「平和」を訴える作品は、どれも深く生徒の心を揺さぶるものだと感じる。この単元では、さらに他の作品を読む機会を作り、何かを考える基礎として本、特に文学作品を活用していく経験をさせたい。それにより、主体的に読書体験を自分のものの見方を鍛える糧としていく姿勢を身につけさせることができよう。その上で、仲間と考えを交わしあい、自分を作り上げていかせたい。

しかし、そうやって生徒が相互に考えを交しあう中でも、何か見えないもの、足りない部分ががあるだろう。そこに気づくために、異なる教育を受けて、戦争に対し我々とはまた違う角度から見ることができる外国の方と話をする機会を作ることは有効ではないだろうか。その「対話」の中で生徒には、自分の戦争の見方、平和についての考え方、今後のわれわれの課題について再度見つめ直し、さらにできる限り具体的に考えるきっかけとさせたい。

このような単元の目標に向け、読書・感想のまとめ・対話・情報集め・情報処理など多くの活動が組まれている。中でも、中心となっているのは、様々な文学作品や、資料などを通してまとめた自分自身の考えを、生徒相互、あるいは生徒と留学生との間でやりとりしながら、深めていくという学習活動である。そのための手段として、「討議・話し合い」を行った。以下、その実践報告である。

単元目標

内　容　○文学作品を通して、「戦争」を読みとる。
○主題や問題に関する社会的・歴史的認識を深める。
○自己の考え方を色々な方面から見つめ返し鍛えていく。

技　能　○本を読みとおし、自分の考えをまとめる。
○その場に応じて、自分の考えを的確に述べる

ことができる。

態　度　○問題を解決するために、自主的・主体的に取り組むことができる。

指導の過程及び計画（二十時間）

第1次（五時間）

①これまでの生活（特に自分の読書生活から）を通して、自分が戦争をどのように見ているか、どんなことを知っているか、振り返りまとめる。　…2時間

②「兄からのはがき」佐江衆一（「現代の国語2」三省堂）を読み、夏休みの課題の方法を学ばせる。　…2時間

③夏休みの課題（戦争に関するさまざまな情報を収集する。文学作品を読み、感想をまとめる。）についての説明を行う。　…1時間

第2次（五時間）

①夏休みの課題（文学作品を読んでの感想などをまとめたプリント）をパソコンに入力する。パソコンを使い、夏休みの課題をお互いに自由に読みあう。　…3時間

②第2次①までの授業を通してもった感想・意見を交換しあい、これまでに学習したことを各自でまとめる。　…2時間

第3次（十時間）

①「対話」に向けての準備を行う（各国の情報収集について・テーマについて）。方法としては、各国の資料を入れた袋を人数分用意する。その中身をよく読みプリントとしてまとめていく。まとめたプリントは、全員に配布し各国理解の一助とする。　…4時間

②海外の方との「対話」を行う。相手は中国・韓国（二人）・ミャンマー・マレーシア・インドネシアからの留学生の方である。　…1時間

③「対話」で感じたこと・考えたことを話し合う。まず各自で振り返り、まとめを行う。それを受けて、各班でのまとめを行う。そして、「対話」の報告会を行う。　…4時間

④本単元のまとめを行う。　…1時間

「話し合い」を含む授業場面について

1　第2次②

授業過程

第2次①で夏休みの課題をパソコンに入力したものがプリント1である。プリント1はプリントアウトせず、生徒たちはパソコンの画面を通して読んでいった。そのプリント1を読んで感じたことをプリント2にまとめた。その内容をもとに感想・意見の交換を行う。2時間をあてた。司会進行は授業者。

①一人目の生徒が一点発表する。

自分の発表内容が感想であるか、質問・疑問であるかを述べる。

②質問・疑問の場合、返答を行う。

③他のものに展開していく。質問・疑問の場合は、その都度返答をさせる。

○先の者と同じ人に対して。

○同じ作品を読んでいた者に対して。

○同じテーマの作品について

④これまでの話を受けて、何か意見のある者は発表する。

⑤二人目の生徒が一点発表する。以下、繰り返し。

深まって欲しいところ、今後の活動につながるところに話がおよんだ場合は、授業者から投げかけていく。

ねらい

他者の感想を読むのにパソコンを利用したのは、自分の読みたいもの、あるいは、自分が読む目的にあったものを選び出し、自分のペースで確実に読んでいくことができると考えたからである。入力には苦労したが、先の目的は達せられたようで、多くの感想に触れることができた。本時は、その中でも特に自分にとって引っかかりのあるものについての発表となる。

質疑・意見を受ける方には、自分の見方・考え方を見つめ直す機会として欲しい。また発表する方も、同じものを読んでも様々な視点があることに気づいて欲しい。そして、その自分とは違う視点を自分なりに消化してもらいたい。

様子

③の活動がうまく展開するかどうか心配であったが、それぞれこれまでに準備してきたものについて積極的に発言できた。また、質問を受ける方も堂々と返答でき、両者の間で新たなやりとりがなされる場面もあった。その結果、それぞれの読み、視点の違いが明らかになり、当初の目的はある程度達することができたと思う。しかし、ほとんどが質問・意見を述べる側と受ける側の一対一のやりとりとなり、そのやりとりを他の者が自分の中にどう位置づけたのか、この時間の中で確認することができなかった。

2　第3次①

授業過程

各国についてまとめたプリントによって、対話相手国の概説・文化・歴史・第二次大戦中の日本との関係・教科書に書かれた日本などについて学習を深める。それをもとにして、プリント3の「①個人で聞きたいこと」を各自でまとめておく。

①プリント3③「クラスのテーマ」を発表させていく。

②①で出てきた「クラスのテーマ」を絞っていく。

③プリント3②「会進行」について意見を述べる。

歓迎の言葉・お礼の言葉・全体会の司会を決定する。

④各班に分かれ、プリント3④をもとにしながら分科会の展開のさせ方を話し合う。

☆話し合うポイントとして、

・どんな話からはいるか。

・聞きたいことを整理する。

・進行役を決定する。

・どのような順番で話すか。

などを与えた。

⑤班長は授業後、授業者に報告を行う。

ねらい

クラス全体のテーマを決めたのは、後の報告会で全員が共通した話題で報告を聞き、話ができるようにと考えてである。また、各班で話題を決めていくときにも、その指針となると考えた。

対話の時間は、実質三十分ほどである。この短い時間を充実させるため、班で十分に話をし、生徒どうしの意思の疎通をはからせたい。

様子

③は数多く出てきた。以下に分類してあげてみる。

『戦争に関連すること』

・戦争の考え方の違い　・戦争の時のこと

・被爆建物を見て　・残留孤児などについて

・戦争中の日本軍について

『国際交流に関すること』

・日本とのつながり　・今後どのように交流をはかるか

『日本に対する見方』

・日本へ来る前の印象　・日本人を見てどう思ったか

・日本についてどのような教育を受けたか

・若い世代の日本観について

・日本について考えること

『生活の違いについて』

・日本との文化の違い　・日本の教育について

・食生活の違いについて　・生活習慣の違い

この課題については、これまである程度の学習を進めてきたためか、様々なことが自信を持ってやりとりされたという印象である。特に、目をこれからに向けているものが出てきたことは、対話に向け大変よい影響を与えた。また、この後全体テーマとして何を選択するか、理由も添えて考えを述べさせた。

④については、リラックスした中で色々とアイディアの交換を行ったようである。③であがったことが随分参考になり、各班でも今度は自分たちの相手方の国に関することや個人的な興味に基づくことなどが多く出された。それをどう構成するかについては苦労していたが、目前に対話の日が迫っているためか時間内に集中してできたと思う。

3　第3次③

授業過程

対話のまとめとして、プリント4を行った。そして報告会での原稿を作るとき・発表の仕方などについての注意事項を全員で確認した後、各班での作業に入った。3時間相当。

①報告会の発表原稿を作成するための話し合いを行う。
・項目立てを行う。（発表資料作成）
・各項目に入れていく内容を決める。
・執筆担当者を決める。
・発表の仕方（発表者・順番など）を決める。

②文章にまとめていく。

③班内で原稿の読み合わせを行う。
・表現面でおかしいところはないか。
・さらにつけ加えた方がよいこと、不必要なことはないか確認する。

④完成させ、発表の練習を行う。

ねらい

留学生の方々が色々な話・資料・ものを準備して下さっていたため、生徒も多くのことを感じとることができた。その感じとったことをそのままにせず、これから生徒に持ち続けてもらいたい視点を明らかに示しておきたいと考えた。また、人（国）により考え方には違いがある。自分の話した一人だけではなく、より多くの人の考えを知ってもらいたいと望んだ。

様子

時間の都合で、大変慌ただしい印象の授業となった。とにかく発表原稿を完成させるために大急ぎで色々なことを決定していった。話をする材料はたくさんあっただけに、十分に生徒の思いを表現させる時間をとれなかったのはとても残念である。

個人の考えをまとめる段階では、はっきりと課題を意識化できない生徒もいたが、班で留学生の方の印象や話しぶり、表情、言葉などを話す内に徐々に思いが深まっていくのが授業者には大変よく伝わってきた。

反省と課題

本稿の「一　はじめに」でも述べたように、本単元の実施の際には、「討論」ということは考えていなかったため、この協議会の主題とはかみ合わない点が多分にあると思う。意見を交わしあうことについて「話し合う」ことしか考えず実施した単元であったが、今振り返ってみると「討論」ということを意識することで、より学習活動を深めることができる場面もあったのではないかと思われる。

普段の授業の中で、「話し合う」という活動をなかなか

活用できない。お互いの考えを連鎖的に発展させながら、自分自身のものの見方を鍛えていく。そのような授業を作りたいと思いながら、いざ「話し合う」場面では思うように意見が交わせない。一つには、生徒が本当に話し合うに足ると考えるような素材を、日々の授業の中で与えられていないということがあると思う。生徒の生活とかけ離れたものではなく、本当に必要だと感じられるようなことを生徒とともに考えていきたい。

この単元では、「戦争」という生徒にとって現在とのつながりが見えにくいことがテーマとなっている。しかし、平和な未来のために避けて通ることはできない課題であり、学べば学ぶほどその大切さが見えてくるものだと思われる。そこで、単元展開を工夫することで、生徒が本単元に入り込んでくることをねらった。その工夫として、「対話」という大きな活動の柱をたててみた。その柱の活動を成功させるために、それぞれの活動に意欲的に取り組む姿勢を引き出せると考えたからである。実際の授業の場面では、生徒にとってよい目標となり、学習活動の推進力となった。

また、この度協議会で発表するに当たり、本単元で行った「話し合い」を洗いなおしてみると、逆にこの単元で「討論」の力を身につけさせることも必要であったと思う。

「2　第3次」のプリント3の③で出たものを絞っていくのに、生徒はよく意見を述べた。しかし、それは単発のもので、意見を戦わせる場面は設定しなかった。挙手（多数決）などではなく、「討論」により周りのものを納得させることでテーマが決定したならば、「対話」のねらいがより明確になったであろう。また、そうしておくことで、後の班単位での話の際に、もっと厳しさを持ちながら討議を進行することができたであろう。

昨年度実施した時点では考えることもなかった「討議・討論」という新たな視点で本単元を見つめ直すことができた。自分に不足するところをさらに身につけていきたい。

プリント１【第２次①】もとＢ４。プリントアウトせず、パソコンの画面で読んでいった。

『戦後五十年を迎えて』

「屋根裏部屋の秘密」（著者：松谷みよこ）を読んで

二年Ｂ・Ｃ組（　　）

①読んでみて、印象深かったところ、心に残ったところはどこですか。言葉でも、行動でも、場面でもよいです。抜き出してみましょう。また、そこから何を感じましたか。詳しく書いてみましょう。

Ｐ／Ｌ	印象深かったところ・心に残ったところ	感じたこと
151/14～	ペスト菌に感染させたねずみや、のみを大量に飼育しましてね。	細菌兵器を使って、無差別に人を殺したり、私には考えられないようなむごいやり方で人を生きたまま殺すような人が、何の罪にもとわれずもうかるなんてむちゃくちゃだと思う。
157/11	りっぱになられましたよ。	
171/14～	いいえ、しりませんでした。	家族の前では、よい父であり、夫である日本兵が建物に入ると、妻や子供とかわらないような人々を何百と殺し、それを家族に隠し続けていたことにあきれと恐怖を感じる。
173/4	出ていったんですからねえ。	
179/5～	むすめというより女の子といいたいような女丸太がいましてね。	私と変わらないぐらいの年の子が、働くだけ働かされて、なついていた医師には見捨てられ、孤独に死んでいったんだろうなあと思うと、安全にのらりくらりとしながら、「勉強するのやだな」なんていっている自分が恥ずかしくなった。
182/2	自分で首をつったりね。	
193/13	ぼくたちは、あまりにも知らなすぎた。	本当に私は何もしらなかった。わたしも直樹のようにナチスドイツのアウシュビッツのことは聞いていても、私とはまるで無関係のような、そんな気がしていたのだ。人を人扱いしていない、「丸太」と呼ぶだけで個人の性格など何も考えない、そんなことが中国で日本人の手によって、本当にあったのだということがズシンと感じられた。

②全体から感じたことはどんなことですか。筆者が中心に描きたかったことも考えながら、書いてみましょう。

私にとって「太平洋戦争」とか「原爆」とかいう出来事は、過ぎ去った歴史の一部であって、「ひどいことだ」という認識はあっても、現実味はなかった。韓国の人とかが、謝罪を求めても、「私がしたわけじゃないのに」と思っていた。だけど、それはまぎれもない「日本人が大量に殺した」という事実で、同じ日本人の私たちも、そのことを忘れてしまってはいけないのだ。「戦後」という言葉の意味を忘れないように、私たちが事実を語り継ぐように…。作者はそう願っていたのではないだろうか。

③この作品を他の人にも知ってもらうため、紹介文を書きましょう。

この話は日本人の責任を考えさせられるものです。主人公の直樹とゆう子、それにエリ子が「じじちゃまの秘密」を知ることで、731部隊が満州のハルビンのピンファンというところで行ったことの恐さをまざまざと見せつけられ、それを伝える立場にある自分たちの責任を果たすことと誓うところで終わります。主人公たちを通して、読者の私たちにも忘れてはならない事実の重さを語りかけてくる、そんな作品です。

プリント2【第2次①】もとB4サイズ。あとに同じ表が続く。

「戦後五十年を迎えて」B・C組の夏休みの課題プリントを読んで

二年（　　）組（　　）

他の人のプリントを読んで、どんなことを感じたでしょうか。次のことに注意して、後の部分に書き込みなさい。

○書き込むのは。

「自分の読み方・考え方と違うところ」（その箇所の指摘だけでなく、自分の読み方・考え方を明らかにすること）

「新たに知った戦争の側面」（どんな記述・感じ方から、戦争について認識を新たにしたことを書きなさい。）

「疑問に思ったこと」（枝葉末節にばかり目がいかないように。その疑問が解決することで、何が分かるのか考慮に入れよう。）

など

○プリント全体を読んでの漠然とした感想を書かないように。

「よく読めていた」「戦争の恐さが伝わってきた」というような表現しかできない人はよく読めていない人です。前記のことによく注意しよう。

○このプリントをもとに、次の時間に話し合いを持ちます。発表の原稿として、うまく活用できるように、誰が聞いてもわかる的確な文章で書き込むこと。

（　　）誰の

作品名・著者名

どの部分	
感じたこと	

プリント3【第3次①】

11月10日(金)に向けての準備

個人で聞きたいこと

会進行案

全体会　歓迎の言葉・留学生自己紹介
文科会　各班で
全体会　お礼の言葉
　必要な係り（全体会司会・「歓迎の言葉」・「お礼の言葉」）

★これは案ですから、留学生の方に気持ちよく話に参加していただき、みなさんに満足して帰っていただくためにはどうすればよいか、それぞれよく考えて修正を加えて下さい。

クラスのテーマ

どうしてもこの点については話をし、課題を明らかにしていこう、ということを、クラス全体で決めておきましょう。各班では、この決定をもとに展開を練って下さい。後日、報告会ではこの点を中心に行います。

分科会展開案（各班での話の内容・順序）

どんなことを話すか考えると同時に、どの順序で話すかも考えておいて下さい。はじめて顔を合わす人と、いきなり核心の話題も難しいでしょう。どんな質問・意見で、相手のどんな考えを引き出していくか、ニュースのレポーターになったつもりで考えてみましょう。しっかり考えておかないと、みんな黙りこくってしまったり、まとまりのないものになったりしてしまうでしょう。よく練っておいて下さい。

プリント4【第3次③】もとB5、2枚分。

「戦後五十年を迎えて」

留学生との対話のまとめ（個人用）

二年B／C組（　　）番（　　）

私が話したのは、（　　）の（　　）さんです。
対話の中でその国の文化・歴史・現在の情勢、あるいは（　　）さんについて、次のようなことが分かりました。

テーマ①「戦争でどんなことがあったのか（相手の方の気持ちも含めて）」ということについては、

テーマ②「日本について考えること」ということについては、

私が、話の中で特に印象に残ったことは、

その理由は、

この個人でのまとめを通して、班での報告をまとめます。
そして、「報告会」と、この単元も大詰めを迎えます。最後まで、きちんとやりとげましょう。